

茨城県厚生連

総合病院 土浦協同病院

Tsuchiura Kyodo General Hospital

病院案内 | Hospital guide book



確かな高度医療を実践して 信頼される総合病院へ

理念

地域の人々に最善の医療を提供して
健康と福祉の増進を図り、
同時に職員の幸せも追求し、
明るく健全な社会づくりに貢献する

高度専門医療と救急医療の拠点として挑戦し続けます

当院は 1948 年に土浦駅前に開業して 75 年以上、茨城県においても全国水準以上の医療を実践しようと、常に最新の医療技術を取り入れ、設備の刷新を継続して行ってまいりました。また、リハビリを中心とする早期退院、社会復帰を見据えた患者支援体制の充実にもいち早く取り組んでまいりました。

2016 年には新病院としておおつ野に移転、再スタートしました。

機能強化した救命救急センターにより、ドクターカー、ドクヘリによる病院前救急も可能になり、重症外傷、脳出血や心筋梗塞、大動脈瘤破裂などの命にかかわる救急患者さんに、迅速な治療、手術が可能になっております。さらに産科クリニックが減少する中、この地で安心して出産できるよう、総合周産期母子医療センターで 24 時間体制を整えています。また、ロボットによる低侵襲手術から放射線治療まで、一病院でがん治療を完結できる茨城県地域がんセンターとしての役割もますます重要になってきております。

今後、人口減少による社会情勢の変化、働き方改革など、厳しくなる医療環境の中にあっても、地域の皆様の健康を守ることで社会に貢献していけるよう、職員一同、力を尽くしてまいりますので、ご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。



総合病院土浦協同病院
病院長 広岡 一信

01 命を守る、医療の最前線

救命救急センター

重症患者を中心に 24 時間体制で対応

1990 年の救命救急センター開設以来、当院の最も重要な使命のひとつとして、24 時間体制で高次救急患者を受け入れてきました。2016 年の病院移転後は、救命救急センターの面積を大幅に拡大。集中治療室や手術室への直通エレベーターを設置するなど導線の効率化を図ることで、より迅速な救命措置がとれるようになりました。センター内を重症度別にゾーニングし、トリアージを徹底することで、的確な救急対応に努めています。

救命救急センターには救急専門医が常駐し、院内の各診療科と緊密な連携のもと切れ目のない救急医療を提供しています。救急専門看護師やスペシャリストと共に、チーム一丸となって救命にあたっています。



病院前救急

病院前救急は救命にとって重要です。当院では敷地内に大型のヘリポートを設置し、ドクターヘリを多数受け入れています。また、ドクターカーも保有しています。救急隊からの要請を受けて医師、看護師が救急の現場に出動。病院前救急活動を積極的に行っています。



高度な救急医療体制

ER 内部は 20 の診察室のほか、ER 手術室、感染症対応診察室、熱傷処置室など様々な状況に対応できるようになっています。また、全 39 床を有する集中治療室にも 24 時間体制で救急専門医を配置。最高水準の医療を提供しています。そのほか、エレベーターで直結したハイブリッド手術室を備え、重篤な外傷患者に対する速やかで負担の少ない治療を実現しています。



02 ― 母体と小さな命を守る

総合周産期母子医療センター

ハイリスク妊娠・ハイリスク新生児を トータルサポート

お母さんと赤ちゃんの大切な命を守るために。当院は総合周産期母子医療センターとして、県南・鹿行地域を中心に、ハイリスク妊娠、ハイリスク新生児を24時間365日体制で受け入れています。

分娩室に隣接してNICU・GCU、そしてMFICUを設置し、母体や赤ちゃんへの負担を可能な限り軽減するよう配慮しています。分娩室内には手術室直通のエレベーターもあり、緊急時においても速やかに対応できる環境を整えています。また、妊産婦の抱えるあらゆる不安にも真摯に向き合うため、公認心理師や社会福祉士、地域の保健師とも連携しながらメンタル面のサポートも行っています。



MFICU

24 時間体制で周産期救急に対応

切迫早産、妊娠高血圧症、前置胎盤、胎児発育不全のほか、内科・脳外科疾患などを合併したハイリスク妊婦の集中管理や治療を行っています。すぐ隣に分娩室（LDR）を設けているほか、緊急の帝王切開等も麻酔科医の管理のもと24時間体制で対応しています。個室内はできるだけストレスを軽減し、快適に過ごせるようインテリアにも配慮しています。



NICU・GCU

広く機能的な空間で院内外の ハイリスク新生児を受け入れ

院内外で出生した早産、低出生体重児や合併症のある新生児の集中管理、治療を行っています。県内小児医療の衰退を防ぐため病床数を大幅に拡充し、広く機能的な空間になり、より多くの赤ちゃんを受け入れることが可能になりました。分娩室は廊下を挟んだすぐ向かい側にあり、移動による赤ちゃんへの負担を少なくするよう配慮しています。



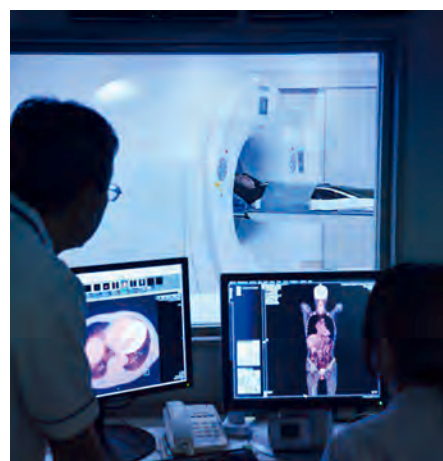
03 ― 治療と支援をトータルに

茨城県地域がんセンター

チーム医療の強みを活かす、 時代に即したがん診療

県南地域を主体に、茨城県全域のがん診療を担う拠点として 1995 年に発足しました。特に低侵襲鏡視下手術では県内トップクラスの実績を誇っています。2016 年には、移転に伴い最新の設備を導入。さらに緩和ケア病棟や患者サポートセンターを設置し、より一層の充実を図りました。

当院の最大の特徴は「あらゆる疾患に対応できる、チームによるがん治療」です。高齢化が進む現代、心疾患や糖尿病、脳血管障害など様々な合併症を複数抱える高齢がん患者の割合が増えています。これらの疾患とがんを並行して治療できる体制は、幅広い診療科を備える当院の大きな強みです。



当院のがん治療

手術

最新の設備が整った手術室で、専門スタッフが連携して数多くの手術を行っています。腹腔鏡や胸腔鏡を用いた低侵襲な手術を積極的に行い、常に新しい知識や技術の導入に努めています。



内視鏡

がんの早期発見はもちろん、内視鏡手術も全国有数の症例数となっています。内視鏡室は全 9 室あり、5 室は消化器専用、4 室は呼吸器専用で緊急時にも即座に対応できます。



放射線治療

専門の放射線治療医をはじめとする専門スタッフが常駐し、外部照射と内部照射の両方に対応しています。リニアックを 2 台導入し、切れ目のない治療を提供できるようにしています。



化学療法

抗がん剤の進歩や支持療法の発展により、外来化学療法はより一般的になっています。当院の化学療法センターはリクライニングチェアを中心とした 33 床を用意しています。



がんゲノム医療

遺伝子検査により一人ひとりの体質や病状に合わせた治療（個別医療、精密医療）を行います。

分子標的薬

がんの増殖に関わる遺伝子やたんぱく質、がん栄養を運ぶ血管などを標的にした治療です。

免疫療法

がん細胞によりブレーキをかけられた免疫細胞の働きを活性化する薬を用いた治療です。

緩和ケア

がんに伴う身体的・精神的な悩み、療養生活を送るうえでの問題などに対して緩和ケアチームが対応しています。また緩和ケア病棟を設置し、がんの症状コントロールや終末期ケアも行っています。



04 患者さんにとって最善の医療を

土浦協同病院のチーム医療

病院は多くの専門職の働きで成り立っています。それぞれの持つ専門性を活かしながら多職種が連携し、患者さんを中心とした医療を提供していこうとするのが「チーム医療」です。

当院は伝統的にチーム医療が根付いています。診療科カンファレンスには複数の科が参加することが当たり前で、診療科の間に垣根はなく、院内コンサルにも積極的です。当院には認定資格、専門資格を持ったスタッフが多数在籍し、スキルを活かした活動を行っています。また、効率的な連携を実現するため、安全で強力な院内システムを構築しました。これにより電子カルテのスムーズな入力や閲覧、全職員への迅速な情報共有を可能にしています。

最高のスタッフと最新のテクノロジー。ふたつの力を合わせることで、患者さんにとって最善の医療を提供できるよう努めています。



チームを構成する 10 の部門

診療部



患者さんを診察し、全体的な治療方針を設計します。それをもとに各職種と情報共有や意見交換など緊密なコミュニケーションをとりながら、チーム医療を円滑に行える環境を整えます。診療科カンファレンスでは、多数の診療科がそれぞれの専門領域から患者さんにとって最善の治療を検討します。

看護部



全職員の半数以上を占める看護師は、患者さんの一番近くにいる存在として、チーム医療の中心的役割を担っています。その中には、高い専門スキルを持つ専門看護師や認定看護師も多く在籍しており、様々な場面でチームに貢献しています。チーム医療で培った繋がりは教育面でも活かされています。

薬剤部



各階のサテライトファーマシーに薬剤師が常駐し、薬剤業務全般を総合的に管理しています。院内での情報提供や検討会も積極的に行い、適正な薬物治療を推進しています。

臨床検査部



血液検査や細菌検査、生理機能検査などの通常業務以外にも糖尿病サポートチームやNST、感染管理室などの医療チームに参加し、情報提供を行っています。

臨床工学部



高度先端医療に欠かせない専門技術者としてチーム医療に大きく貢献しています。常に最先端の知識・技術の習得を目指し、スタッフの育成にも力を注いでいます。

社会福祉部



社会福祉士と公認心理師が所属し、専門的な立場から患者さんの相談に対応します。多職種カンファレンスや医療チームにも参加し、情報共有、意見交換を行っています。

放射線部



2015年に茨城県初の「医療被ばく低減施設」に認定されました。放射線治療においては、医師はじめ他の医療スタッフと情報共有を緊密に行い、より安全で確かな治療計画を立てています。

リハビリテーション部



急性期から全分野の患者さんにリハビリを提供しています。カンファレンスを通じて各病棟と連携を図るほか、院内の各種委員会や専門チームに所属して活動しています。

栄養部



適時適温の食事サービスを実現し、衛生面の徹底と食事の安全性の確保を図っています。NSTの中心的役割を担うほか、褥瘡対策委員会のメンバーとしても活動しています。

事務部



医事課、施設課、庶務課の3つに分かれており、受付業務や会計業務、院内設備のメンテナンス、物品や医療物資の購入、人事や給与、経理など病院運営を事務的立場から支えています。

05 プライマリケアから高度先端医療まで

充実した医療環境

地域の人々に、より安全で確かな医療を提供するため、当院では最先端の設備やテクノロジーを活かした高度先端医療を推進しています。幅広い分野の専門家が集う総合病院という環境を活かし、総合力と専門力を常に発展させていくことで地域の方々に安心していただけるよう努めています。また、地域の中核病院として多様なニーズに応えていくため、ハード面を大きく拡充。すべてにおいてハイレベルな医療環境を整えました。



心臓カテーテル・アンギオセンター ハートリズムセンター

不整脈に対するカテーテル・アブレーションにおいて国内トップクラスの実績を誇る当院。血管内治療のさらなる充実を図るため、最新の機器を備えた心臓カテーテル・アンギオセンター、ハートリズムセンターを設置しました。多職種の専門スタッフが現場に入ることができ、コミュニケーションがとりやすい空間となっています。

造血幹細胞移植センター



再生不良性貧血の治療、造血器腫瘍に対する治療補助を二本柱とした高度な移植医療を行っています。日本骨髄バンクの認証を受け、非血縁者間の骨髄移植も可能になりました。臍帯血バンク登録医療機関でもあり、臍帯血移植にも対応しています。病棟には2室の無菌室とHEPAフィルターを設置した個室8室を備えています。

地域リハビリテーション 広域支援センター

茨城県地域リハビリテーション広域支援センター、茨城県地域リハ・ステーションとして地域のリハビリテーションの充実に取り組んでいます。最先端機器であるCYBERDYNE社の「ロボットスーツ HAL®」を2台、三次元歩行解析装置などを積極的に導入。急性期リハビリテーションをより安全かつ効率的に提供できる環境を整えています。



解析画像

手術室

最先端の設備を整えた全18室の手術室は当院の大きな特徴です。そのうち2室はハイブリッド手術室になっており（手術室内にCTと血管造影装置を備えた1室とMRIを備えた1室）、術中の移動にかかる負担やタイムロスを軽減し、緊急手術における救命率の向上に寄与しています。24時間稼働する当院の手術室では、熟練の医師と専門スタッフが連携し、テクノロジーを駆使した次世代型手術を行っています。





PET-CT

放射線部

放射線診断部門では診断用 CT3 台（320 列：2 台、128 列 1 台）、MRI3 台（3.0T：2 台、1.5T：1 台）に加え PET-CT も導入しました。放射線治療部門ではリニアック 2 台、腔内照射装置 2 台を備えています。



CT



MRI

集中治療室

重症患者を収容する集中治療室は計 39 床。救急外来と直通のエレベーターでつながり、迅速にアクセスできます。EICU、GICU、SCU、CCU に分かれています。



血液浄化センター

リクライニングチェアとベッドを 62 床設置し、血液浄化療法を行っています。患者さんの社会復帰支援のため、午後 10 時まで稼働しています。

化学療法センター

ゆとりある空間のなかに、リクライニングチェアを中心に 33 床を設置。より快適な外来化学療法を推進しています。



臨床検査部

心電図検査、呼吸機能検査、脳波検査など多岐にわたる生理機能を 1 カ所で効率的に行えます。検体検査部門、病理検査部門にも最新の機器を揃えています。



患者サポートセンター

社会福祉士や公認心理師、管理栄養士、薬剤師、看護師、事務員などが患者さんの様々な相談に対応。各部署と連携し、総合的なサポートを行います。そのほかにも入退院支援や、ケアマネジャーとの連携窓口として機能しています。地域包括ケアシステムにおいて重要な役割を担う部署になります。



06 ― 地域の健康と福祉を支える

地域密着の病院を目指して

当院は地域医療の拠点病院として、地域の再生・活性化、コミュニティの中心的役割を果たすべく、医療と地域社会が融合した「メディカル・エコタウン（医療環境経済都市）」の創生を目標としています。これは医療と街と自然環境との融合を図り、地域の健康と生命を守る、地域に密着した病院を目指すものです。高齢者ケア、子育て支援、健康増進、福祉・介護を含めたトータルな医療の提供に努めています。



予防医療センター

地域の方々に定期的に健康診断を受けてもらえるようアメニティとプライバシーにこだわった快適な空間を設計。レディスフロアや個室の保健指導室を設け、進捗状況把握システムを導入し、短時間で効率よく受診できる環境となっています。経鼻内視鏡やPET-CT、3Dマンモグラフィなど最新の設備も揃えてあります。また、ドック後の昼食は、当院最上階の展望レストランでホテルオークラの料理をお楽しみいただけます。



予防医療センターの最大の強みは、精査が必要な場合に土浦協同病院の適切な診療科にスムーズに移行できることです。病院受診の際には、画像、生理、検体検査といった健診データをそのまま参照することができ、負担を軽減することができます。

また、生活習慣病の治療においても、糖尿病や腎臓病の検査、勉強のための入院を用意しています。



訪問看護ステーション

1. 小児から在宅ターミナルまであらゆる年齢・疾患の利用者に対し、個別性を重視した質の高い看護の提供に努めます
 2. 地域や関係職種間との連携を図り、利用者および家族が24時間365日安心して在宅療養ができるよう援助していきます
- 上記を方針として、土浦市・かすみがうら市を中心に母体の土浦協同病院だけでなく、近隣の大学病院や地域の開業医の先生方からも訪問看護指示書を頂いて訪問しています。全体の利用者のうち約1割は小児となっています。



真鍋診療所

土浦協同病院附属真鍋診療所では、主に内科、小児科一般を対象とし、地域のかかりつけ医として住民の皆様と信頼関係を築き、健康増進の支援を目指しています。本院より少ない待ち時間で本院医師の診察を受けられることがメリットです。また、専門的な治療を必要とされる方には紹介状を作成し、土浦協同病院にて速やかに受診できるよう連携をとっています。真鍋診療所は土浦協同病院の旧健診センター棟にあります。



心安らぐ癒しの空間

安全・安心・快適な空間設計

土浦協同病院では、来院者や職員が病院で快適に過ごせるような様々なサービス施設、空間を用意しています。約370人を収容できる劇場タイプの講堂は、職員研修や市民公開講座などで使用されています。吹き抜けとなっているエントランスホールでは、クリスマスコンサートなど様々なイベントが催され、患者さんと地域の方々、職員の交流の場にもなっています。



エントランスホール



Jハピネット



セブン-イレブン



ヘアーガーデンハートウィル



講堂



リハビリ庭園



展望レストラン
オークラ カフェ&レストラン メディコ

附属施設



01 土浦協同病院附属看護専門学校

1 学年定員 120 名、3 学年で 360 名の学生が学ぶ全国でも最大規模の看護専門学校です。最大の特徴は国内トップレベルの質を誇る地域の中核病院である当院で、最新の医療を目の当たりにしながら数多くの実習を行えるところです。高いスキルを持つ現役の看護師や医師も院内講師として指導にあたるなど、充実した教育内容で県内厚生連病院に広く卒業生を輩出しています。



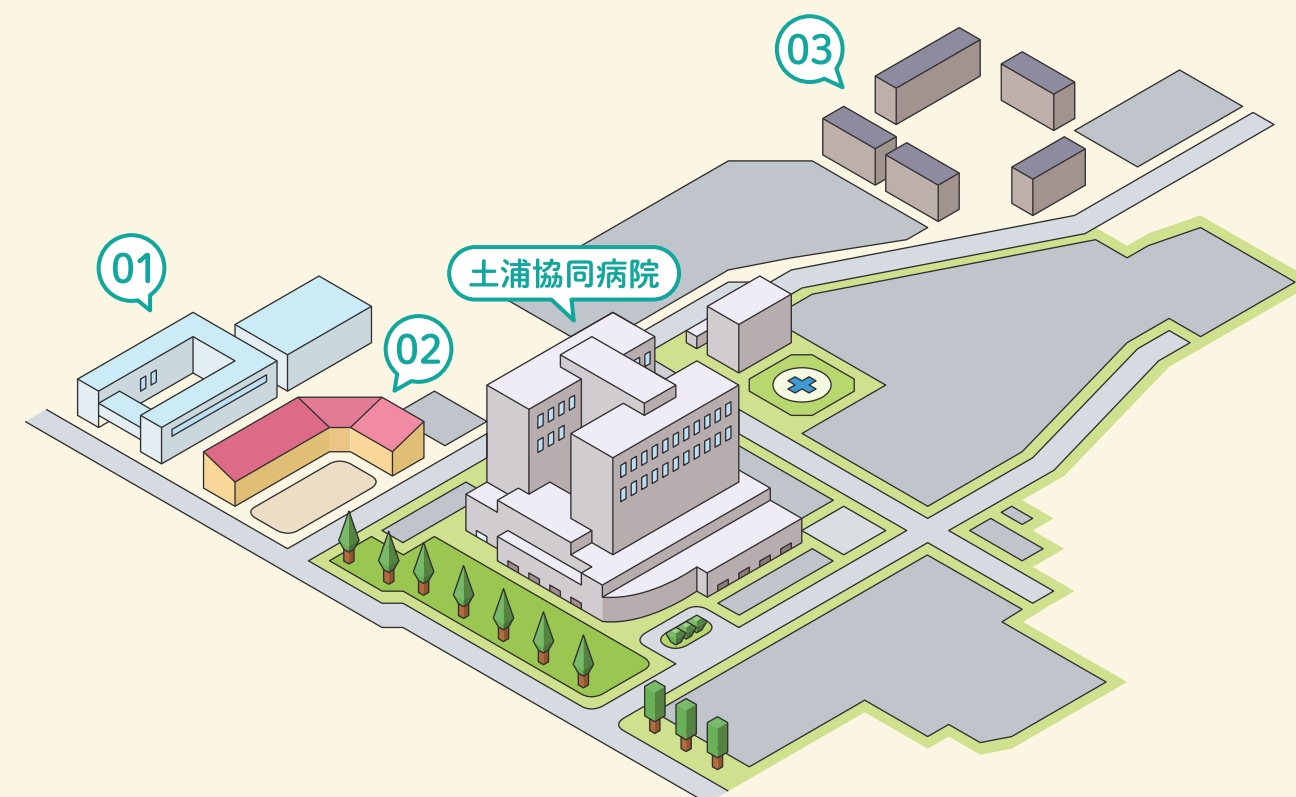
02 附属保育所ひまわり

職種に関係なく、全職員を対象に 24 時間 365 日体制で保育を行っています。茨城県産のスギ・ヒノキ材と国内の木材をふんだんに利用した園舎は、温もりとゆとりに溢れた空間となっています。病院職員の勤務の厳しさは増大していますが、地域住民の健康を守るために当院の職員は献身的に努力しています。そんななか、大切なお子様をお預かりし、養育・教育を支援する大規模な病院附属保育所は地域、及び医療界でも高い評価を得ています（0 歳児から 5 歳児まで合計 200 名が入所定員）。



03 職員宿舎

職員が働きやすい環境を整えることは、患者さんの安全・安心においても大切なことです。職員用賃貸アパート「ディアコートおおつ野」には、安心して快適な生活を送るための様々な設備やセキュリティが備えられています。また、病院の隣接地にあるため通勤の負担もなく、業務に集中できる環境となっています。





QR コードを読み込むと当院
ホームページが表示されます。
当院に関する最新情報や詳細は
こちらからご覧ください。



概要

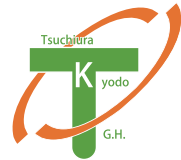
名 称：総合病院 土浦協同病院
院 長：広岡 一信
病床数：800 床
職員数：1,580 人（令和 6 年 4 月時点）

診療科

内科	消化器内科	脳神経内科	リウマチ科
代謝・内分泌内科	循環器内科	産婦人科	泌尿器科
小児科	小児科（新生児）	耳鼻いんこう科	歯科口腔外科
皮膚科	眼科	乳腺外科	呼吸器外科
人工透析内科	消化器外科	整形外科	形成外科
心臓血管外科	脳神経外科	病理診断科	放射線診断科
血管外科	リハビリテーション科	救急科	
小児外科	麻酔科	血液内科	
放射線治療科	腎臓内科	呼吸器内科	

主な指定・施設

- ・日本医療機能評価機構認定病院
 - ・臨床研修指定病院
 - ・救命救急センター
 - ・臓器提供施設
 - ・地域がん診療連携拠点病院
 - ・D P C対象病院
 - ・茨城県地域がんセンター
 - ・総合周産期母子医療センター
 - ・小児救急医療拠点病院
 - ・小児救急中核病院
 - ・茨城県地域災害拠点病院
 - ・DMA T 指定医療機関
- ・第二種感染症指定医療機関
 - ・エイズ治療拠点病院
 - ・難病医療協力病院
 - ・地域医療支援病院
 - ・がんゲノム医療連携病院
 - ・非血縁者間骨髄移植・採取施設認定
 - ・てんかんセンター
 - ・茨城県指定地域リハ・ステーション
 - ・茨城県指定地域リハ・ステーション広域支援センター
 - ・土浦協同病院ケアプランセンター（居宅介護支援事業）
 - ・土浦市在宅介護支援センター
 - ・厚生連土浦訪問看護ステーション



総合病院 土浦協同病院

〒300-0028 茨城県土浦市おおつ野四丁目 1 番 1 号
TEL：029-830-3711（代表）
FAX：029-846-3721
Mail：general@tkgh.jp
URL：https://www.tkgh.jp/